

人口と高齢化に関する国際国会議員会議（IPCA）

経済的に活力のある健康長寿社会の実現を目指して



11月18日～19日に「人口と高齢化に関する国際国会議員会議（IPCA）」が衆議院第一議員会館・国際会議室で開催され、世界各地から31か国の国会議員および国内委員会、政府要人、国際機関代表、専門家、企業役員等、総勢150名が参集しました。

このプログラムは、国際人口問題議員懇談会（JPFP）・公益財団法人アジア人口・開発協会（APDA）主催、国連人口基金（UNFPA）共催、人口と開発に関するアジア議員フォーラム（AFPPD）、アメリカ地域人口・開発議員グループ（IAPG）、ヨーロッパ人口・開発議員フォーラム（EPF）、アフリカ人口・開発議員フォーラム（APF）」および、日本国外務省・国際家族計画連盟（IPPF）の後援で開催されたものです。

非西欧で初めて人口転換を達成した日本は、その結果として、世界で最も高齢化率の高い国となっており、既存の人口構造を前提として制度設計された年金・社会保障などの財政負担の問題などをはじめ、様々な課題への対処が求められています。これは近い将来、日本に続いて人口転換を達成した各国が直面する課題でもあります。



この問題に対処するために、これまでに我が国が達成した国民皆保険制度、高齢社会への対応や社会保障制度等について、その経験を各国へ移転するとともに、アジアをはじめとする世界各国との支援協力体制を構築・強化し、新しい視点に基づく制度設計を行うことが求められています。

会議は、「経済的に活力のある健康長寿社会の実現を目指して」をテーマに、高齢化を人口と持続可能な開発という視点から位置づけ、高齢社会の様々な側面を検討し、日本の経験や対処を通じて具体的な対策の可能性を探ることを目的として開催されました。



開会式では、福田康夫元内閣総理大臣（APDA 理事長・AFPPD 前議長・JPFP 名誉会長）の開会挨拶に続き、岸田文雄外務大臣からのメッセージが代読され、田村憲久厚生労働大臣、林芳正農林水産大臣、新たに JPFP 会長に選出された谷垣禎一議員が挨拶を行い、人口の高齢化と持続可能な

開発に関する日本の国会議員活動のプレゼンスを内外に示しました。

また、この会議の共催機関である UNFPA からは、ババトウンデ・オショティメイン事務局長が参加し、武見敬三議員とともに基調講演を行いました。

2 日間にわたる 6 つのセッションでは、合計 14 人の研究者や企業の第一人者による講演の後、モデレーターを挟み各国議員との間で熱心な議論が行われました。

セッション 1: 世界の高齢化の諸相 – 人口動態とその意義 –

セッション 2: 人口の高齢化と健康寿命

セッション 3: 経済的に活力のある健康長寿社会

セッション 4: グローバル企業の将来戦略としての高齢化対策と役割

セッション 5: 高齢化社会におけるシナジー効果

セッション 6: パネルディスカッション 地域における高齢化の現状と影響

続くセッション 7 では、宣言文採択に向けたディスカッションが活発に行われ、会議の成果文書として、今後の高齢化社会に向けた国会議員の取り組みを明確にした宣言文が全員一致で採択されました。